

六年生の様子

担当 藤江 海

「この子供たちにとって最高の一年にしたい。」そんな思いを抱きながら子供たちと出会った4月6日を昨日のこのように思い出します。そして、あの日から気付けば1年が経とうとしています。

この1年。辛いこと、苦しいこと、楽しいこと、幸せなこと。たくさんの経験を子供たちと一緒にさせてもらいました。短い準備期間の中で自主的に動いて成功させた移動教室。高い課題を求められながらも見事に完成させた運動会。内容が盛りだくさんの授業。そして何気ないことで一緒にお腹を抱えて笑った日々。子供たちが家族や友達と一緒に多くのことを乗り越え成長していく様子を見る度に、その輪に1年間も加わらせてもらったこと、共に時間を過ごせたことに幸せを感じていました。そしてそんな時にいつも、ある言葉を思い出していました。

「自分じゃない誰かのために毎日を費やすのって、こんなにも意味をもたらしてくれるものなんだ」

これは「そして、バトンは渡された（著：瀬尾まいこ）」の中の私の大好きな言葉です。子供たちの成長を目にする度に、言葉にならない幸せな感情が生まれ、明日の活力が生まれます。思い返すと、子供たちを支えるべき私たち担任が、この言葉のように子供たちと共にする時間に支えられていたのだなと気付かされます。

最後になりましたが、保護者の皆様。こんなに素敵な子供たちのことを、そして私たち担任のことを、1年間、愛情深く支えていただき、そして幸せな時間をくださり、誠にありがとうございました。これから子供たち、そしてご家族の皆様の人生が幸せでありますように。そしてその幸せを小池小学校の思い出が少しでも支えてくれますように。

小池まつり

担当 山村 佳蓮

2月10日（土）に小池まつりが行われました。今年度は、新型コロナウイルスの制約が緩和された開催となりました。2～6年生が学年のテーマにそって、各クラスごとにお店を出し、子供たちは、自分の縦割りクラスを自由に回りました。

各学級で話し合った言葉を基に、運営委員会がスローガンを決めました。今年度のスローガンは、「みんなで支え合い、すてきな思い出を作ろう」です。子供たちは決定したスローガンを基に、目的意識をもって行事に参加しました。

当日は、運営委員会の児童の放送によって小池まつりが始まります。タイムスケジュール通りに進むように、運営委員会の子供たちが進行を行い、全校の協力もあって、おまつりは順調に進んでいきました。前半、後半に分かれて40分ずつお店を出します。お店の説明を一生懸命にしたり、たくさんのお客さんが来るように看板を持ちながら呼び込みをしたりと、子供たち同士で協力してお店を盛り上げました。子どもたちは、それぞれのクラスのお店を楽しみながら回り、学校全体が子供たちの明るさでいっぱいになった一日になりました。

今年度の小池小学校の合言葉は「クローバー」です。小池まつりを通して、クローバーの3枚の葉に込められている自由・責任・思いやりの力が育まれたのではないのでしょうか。